

第223回理事会開催 2026年度事業計画・予算を審議/承認



第5回CSP大賞 表彰式を開催 38件の取り組みを選定



「モータースポーツ オープニング セレモニー」実施

スーパー耐久初戦にて
シーズン開幕を宣言



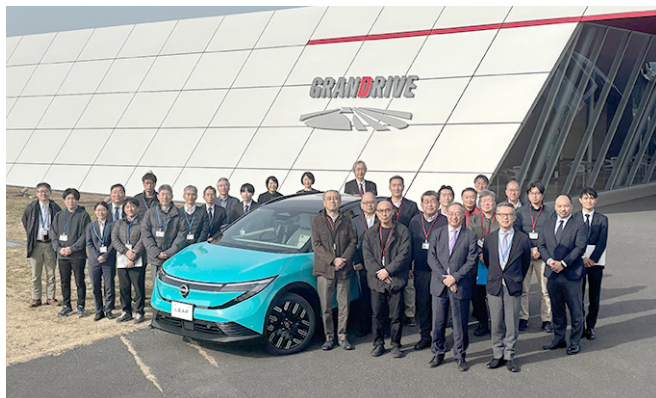
※写真をクリックすると詳細記事がご覧になれます

[CONTENTS] <2026年1月~4月>

1月・2月

[1月]

- 26日 [2025年度 国内施設視察会](#) 12



[2月]

- 19・20日 [第114回全国自動車会議所
専務理事会](#) 13



3月・4月

[3月]

- 10日 [第9回運営審議委員会](#) 14
- 12日 [第2回経済・産業委員会](#) 14
- 13日 [2025年度全国自動車会議所
永年勤続者表彰式](#) 15



- 16日 [第223回理事会](#) 3
- 16日 [第5回CSP大賞表彰式](#) 9



- 20・21日 [JAFモータースポーツジャパンに出展](#) 16
- 21日 [モータースポーツオープニングセレモニー2026](#) 11
- 21日 [第3回モータースポーツ委員会](#) 17
- 27日 [第313回会員研修会](#) 18
- 30日 [第2回道路・交通委員会](#) 18



[4月]

- 4・5日 [交通安全 アクション2026](#) 20



※各項目をクリックすると詳細記事がご覧になれます。

第223回理事会開催

2026年度事業計画・同予算の2議案を審議し承認

豊田会長が今後の活動に意欲的に取り組む姿勢示す

日本自動車会議所は3月16日、東京・港区の第一ホテル東京で第223回理事会を開催しました。理事会では、定款により議長を務めた当会議所の豊田章男会長による議事進行の下、「2026年度事業計画」および「2026年度予算」の2議案が審議され、その結果、いずれも原案どおり承認されました。

審議に先立ち、豊田会長が挨拶し＝4ページ参照＝、まず会員団体の課題などに言及。豊田会長は、「(会員団体の)課題解決のため、時には接着剤として、また時には防波堤として、そして時には政府などへの働きかけを通じてお支えてまいります」と述べました。そして、「それぞれの団体の活動を陰に陽にサポートしていくのが自動車会議所の位置づけであると考えており、是非、皆さまと協力して取り組んでまいります」として、今後の活動に意欲的に取り組んでいく姿勢を示しました。

豊田会長の挨拶に続き、事務局から2025年度の活動実績や活動状況などが説明された後、「2026年度事業計画」および「2026年度予算」の2議案が審議され、いずれも原案どおり承認されました。

2026年度事業方針・事業計画等は5～8ページをご参照ください。



2026年度事業計画・予算が審議された第223回理事会。写真円内は豊田章男会長

豊田 章男会長 ご挨拶

昨年6月に会長に就任した際、「クルマをニッポンの文化に！」という合言葉を掲げました。「文化」と申したのは、昭和20年（1945年）の終戦直後に設立された、日本自動車会議所の前身の「自動車協議会」が平和国家の再建と世界文化に寄与することを掲げ、またその翌年の昭和21年に創立された当会議所の設立趣意書に「自動車は国民生活の維持と文化の向上に不可欠」と謳われていたため、そのように申し上げさせていただきました。

日本自動車会議所には、製造、販売、部品、整備、中古車、輸入車、バス・トラック・タクシーの運輸といった自動車関連に従事する550万人を有する多くの団体に加盟いただいております。今年度から自動車ユーザー2,000万人を会員とするJAFさんが入会されました。会議所といたしまして、皆さまの団体が取り組まれている課題解決に向け、できるだけサポートしていきたいと思っております。

各団体の主な課題として、自工会はサプライチェーンの競争力強化や税制改革など7つの課題への取り組み、自販連は国内市場の活性化、



トラック協会は荷主との取引慣行の見直しや燃料・人件費上昇分の運賃への転嫁、バス協会は運転手不足や燃料費上昇などへの対応、そしてハイヤー・タクシー協会はドライバー不足解消に加え、地方での乗り合いタクシーや日本版ライドシェアの拡大などを掲げています。

部工会は適正取引の継続的な推進、日整連は新技術への対応や整備士不足、後継者問題への対応、JAFはロードサービス拡充と交通安全

の推進、そしてモータースポーツの振興、全軽自協は税負担増加に絶対反対を掲げ、輸入組合は電動車普及に向けた税制補助金の拡充、中販連は経年車重課に反対などとしております。

自動車会議所は、皆さまの課題や困りごとを横断的にとらえ、その解決のため、時には接着剤として、また時には防波堤として、そして時には政府などへの働きかけを通じてお支えしてまいりたいと思います。ここに各団体のトップにお集まりいただいておりますが、1+1を2ではなく、3や4に持って行きたいと思い、活動を続けております。

自動車産業が今こそ頑張らなければ、日本はもっといい国にはならないと思っておりますし、また、頑張っている人が報われるためにも、まずはこの自動車産業で働く人たちが報われる世の中をつくりたいという切実な願いを持ってやっております。それぞれの団体の活動を陰に陽にサポートしていくのが自動車会議所の位置づけであると考えており、是非、皆さまと協力して取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。



I. 2026年度 事業方針

- 「クルマをニッポンの文化に!」の下で始まった活動の加速
- 業界の課題解決に資する活動の**新規立ち上げ**

文化活動

- ✓ モータースポーツ委員会
3つのタスクフォース継続
- ✓ クルマ・バイクファン拡大
日米自動車文化交流
- ✓ CSP大賞 第6回開催

業界課題解決

新規

- ✓ マイナンバーカードを使った
 - ①自動車登録の簡素化
 - ②健康運転寿命の延伸
- ✓ 税制要望活動
- ✓ 交通安全

会員団体連携

- ✓ 委員会活動の充実
- ✓ 講演会・視察会等 開催

Ⅱ. 事業計画のポイント

マイナンバーカードを活用した①自動車登録の簡素化と②健康運転寿命の延伸

自動車会議所として会員団体ネットワークを基盤に社会実装型プロジェクトを推進

プロジェクト概要

① 自動車登録簡素化（DX化）プロジェクト

- ・書類・印鑑・手作業が含まれる登録手続きをデジタル化し、マイナンバーカードを起点とした行政・民間システムのデータ連携によって正確性・迅速性を高める



② 健康運転寿命延伸プロジェクト

- ・職業ドライバーを中心に疾病リスクを早期発見、その後の行動変容を促進する安全運転の継続や支援につながる仕組みを開発し、健康運転寿命延伸サービスの展開に繋げる（マイナ保険証とも連携）

* ①②ともに26年度単年度の活動ではなく中期的な活動



【ご参考】自動車登録DX化推進には官・民 多方面の連携が重要

現状

自動車所有者・使用者



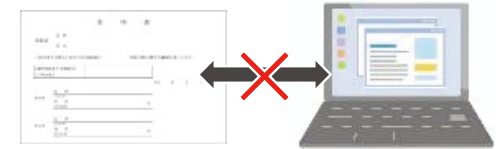
何度も同じ情報を入力/
押印や公的証明書類が必要

自動車販売店



紙面での書類作成・確認や
差し戻し・管理が煩雑

自販連・運輸支局



目視検査による書類とOSS申請データの
比較・修正・差し戻しが煩雑

目指す姿



マイナンバーカードによる本人認証と署名
をするため実印と公的証明書類が不要に



申請に必要なデータは自動で連携・作成
/紙の出力や送付も不要に



正しい情報による申請のため、
修正・差し戻しも不要に

業務フロー整理や電子化対象手続きの優先順位検討、トライアルへのご参画等について、現場課題の解決に向け、皆様と具体的に議論・検討させていただきたいと考えております。



【ご参考】健康運転寿命延伸プロジェクトの推進には官・民 多方面の連携が重要

現状

(高齢/職業) ドライバー



免許返納後の生活が心配
気がついたら認知や眼、身体が衰えている

交通事業者



従業員の体調や事故が心配
従業員をもっと大切にしたい

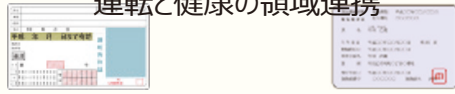
保険・金融・業界団体



事故や医療費のコストが増加する一方で、
健康や予防の価値が財務に反映されていない

目指す姿

マイナンバーカードを起点とした
運転と健康の領域連携



データ連携により健康リスクを早期に捉え、
年齢一律の免許返納ではなく“継続支援”へ



健康管理が“止める理由”ではなく、
社員を“守り、成長する仕組み”になる



健康・予防の成果を正しく評価し、
医療費・介護費削減効果を財務価値に転換

現場課題の共有、実際のデータ活用と支援の実証、成果設計の議論など、皆様と具体的な対話を重ねさせていただきたいと考えております。

第5回 CSP 大賞 表彰式を開催

38件の優秀な取り組みを選定

幅広い関係者が課題解決へ協力

日本自動車会議所（豊田章男会長）は3月16日、東京・港区の第一ホテル東京で第5回（2025年度）「クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞（CSP大賞）」（共催＝日刊自動車新聞社）の表彰式を開催し、受賞者をはじめ自動車業界の関係者など100人を上回る方々が出席しました。今回は前回は上回る56件の応募が全国からあり、38件を「グッドパートナーシップ事業」に選定。その中から、アイシンの「乗り合い送迎サービス『チョイソコ』」が「大賞」に輝きました。また、大賞に次ぐ「選考委員特別賞」は、ウエルカムライダーズおがの（事務局＝西秩父商工会内）の「オートバイによるまちおこし」と、トヨタ自動車の「DRIVERRECORDER119」の2件が受賞しました。このほか、「モビリティ・ソリューション賞」2件、「地域・コミュニティ活性化賞」3件、「環境貢献賞」3件、「くるまファン拡大賞」3件の受賞者を決定しています。

主催者を代表して挨拶に立った豊田会長は、「第5回を迎えるに当たり、『文化』という言葉がこの賞の名称に加えました。これは、私自身が掲げた『クルマをニッポンの文化に』との思いを、より強く社会に発信したいという願いによるものです。応募さ



豊田会長(前列の左から3人目)を囲んで記念撮影をする受賞者・関係者の皆さん



第5回(2025年度)クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞表彰式

主催 日本自動車会議所 日刊自動車新聞社

れた取り組みは、いずれもクルマをより良くしたい、社会の役に立ちたいという強い思いの下、自ら動き、仲間を巻き込み、続けてきた成果だと思えます。皆さまの活動が、未来のモビリティ社会につながる大きな力となっていくことを確信しています」と話しました。

続いて、選考委員会の蓮花一己委員長（日本自動車連盟副会長、帝塚山大学名誉教授）からのご挨拶・講評があり、その後、豊田会長による賞状授与などのセレモニーが行われました。表彰式終了後には別会場へ場所を移して交流会が開催されました。

なお、表彰式・交流会の詳細は、4月13日発行した『第5回CSP大賞特別号』に掲載しています。

第5回CSP大賞各賞の受賞者は次の通りです。

『第5回CSP大賞特別号』

<https://www.aba-j.or.jp/wp/wp-content/uploads/2026/04/2026.tokubetsu-news-1.pdf>

第5回 CSP 大賞各賞の受賞者

<大賞>

- ・(株)アイシン (愛知県刈谷市)

<選考委員特別賞>

- ・ウエルカムライダーズおがの (埼玉県秩父郡小鹿野町)

- ・トヨタ自動車(株) (愛知県豊田市)

<モビリティ・ソリューション賞>

- ・(株)アイシン (愛知県刈谷市)
- ・坪井自動車钣金(有) (岐阜県大垣市)

<地域・コミュニティ活性化賞>

- ・愛三工業(株) (愛知県大府市)
- ・アデル・カーズ(株) (熊本県熊本市)
- ・三井住友海上火災保険(株) (東京都千代田区)

<環境貢献賞>

- ・(株)ブロードリーフ (東京都品川区)
- ・トヨタ紡織(株) (愛知県刈谷市)
- ・(株)東海理化 (愛知県丹羽郡大口町)

<くるまファン拡大賞>

- ・(株)豊田自動織機 (愛知県刈谷市)
- ・神奈川スバル(株) (神奈川県横浜市)
- ・Team MARI (東京都港区)

<グッドパートナーシップ事業>

- ・(株)東海理化 (愛知県丹羽郡大口町)
- ・奈良トヨタ(株) (奈良県奈良市)

※上記は除く

- ・(株)東海理化 (愛知県丹羽郡大口町)
- ・ネットトヨタニューリー北大阪(株) (大阪府豊中市)

- ・(株)ホンダカーズ岐阜 (岐阜県羽島郡岐南町)

- ・(株)レモリフ (香川県高松市)

- ・(株)ホンダカーズ長野中央 (長野県長野市)

- ・明星金属工業(株) (大阪府大東市)

- ・トヨタ博物館 (愛知県長久手市)

- ・Hyundai Mobility Japan (株) (神奈川県横浜市)

- ・トヨタモビリティ東京(株) (東京都港区)

- ・島根トヨペット(株) (島根県松江市)

- ・トヨタカローラ香川(株) (香川県高松市)

- ・日野自動車(株) (東京都日野市)

- ・学校法人 柳心学園 (鳥取県米子市)

- ・トヨタ・コニック・プロ(株) (東京都千代田区)

- ・愛媛日産自動車(株) (愛媛県松山市)

- ・OKISHU (東京都中野区)

- ・KPMG モビリティ研究所 (東京都千代田区)

- ・KCJ GROUP (株) (東京都中央区)

- ・(一社) 日本自動車連盟 (東京都港区)

- ・GN ホールディングス(株) (群馬県前橋市)

- ・(株)メーカーズ (福岡県福岡市)

- ・ウエイズインポートカーズ(株) (神奈川県横浜市)

「モータースポーツ オープニングセレモニー 2026」開催

スーパー耐久初戦 もてぎ大会にてシーズン開幕を宣言

日本自動車会議所

日本自動車会議所は、2026年の国内モータースポーツシーズン開幕にあたり、3月21日のスーパー耐久シリーズ開幕戦に合わせ、モビリティリゾートもてぎ（栃木県茂木町）にて、オープニングセレモニーを開催しました。セレモニーには、レース統括団体である日本自動車連盟、日本モーターサイクルスポーツ協会のほか、四輪を代表するプロモーターであるGTアソシエーション、日本レースプロモーション、スーパー耐久未来機構の代表者が一堂に会し、日本自動車会議所の豊田章男会長とともに2026年モータースポーツシーズンの開幕を宣言、業界全体が一丸となって盛り上げていくとの意気込みを示しました=写真=。

【開催概要】

■日 時：2026年3月21日(土)

※スーパー耐久シリーズ開幕戦会期内

■場 所：モビリティリゾートもてぎ

(栃木県茂木町)

■参加団体・登壇者

・(一社) 日本自動車連盟：坂口正芳会長

・(一財) 日本モーターサイクルスポーツ協会：

鈴木哲夫会長

・(株) GTアソシエーション：金曾裕人取締役

・日本レースプロモーション(株)：

上野禎久代表取締役社長



・(一社) スーパー耐久機構：桑山晴美副理事長

・(一社) 日本自動車会議所：豊田章男会長

【開催の背景と意義】

国内モータースポーツは、四輪・二輪、フォーミュラ・GT・耐久など、多様なカテゴリーが独自の魅力を持ちながら発展してきました。

カテゴリーの垣根を越えて主要団体が一堂に会し、「日本のモータースポーツをともに盛り上げていく」という意思を共有する場として、本セレモニーを開催いたしました。ファン、地域、パートナー企

業の皆さまへの感謝を示すとともに、2026シーズンの成功を祈念し、日本のモータースポーツ文化のさらなる発展を目指します。

【今後の展開】

2026シーズンは、各カテゴリーで新たな挑戦や技術革新が進む1年となります。日本自動車会議所は、昨年立ち上げたモータースポーツ委員会を通じて関係団体と連携しながら、ファン拡大、関係人材確保、DX推進など、モータースポーツの持続的な発展に向けた取り組みを進めてまいります。

2025年度 国内施設視察会開催 日産自動車「グランドライブ」を訪問

EVやスポーツカーなど最新の日産車に試乗

自動運転・先進安全技術などを体験

日本自動車会議所は1月26日、神奈川県横須賀市にある日産自動車・追浜試験場のテストコース「GRANDRIVE（グランドライブ）」において、国内施設視察会を開催しました。参加された皆さんは電気自動車などの電動車や、最新のスポーツカーによる試乗のほか、バンク走行、自動運転技術などを体験しました。当日は、全国の会員企業・団体より20名が参加しました。

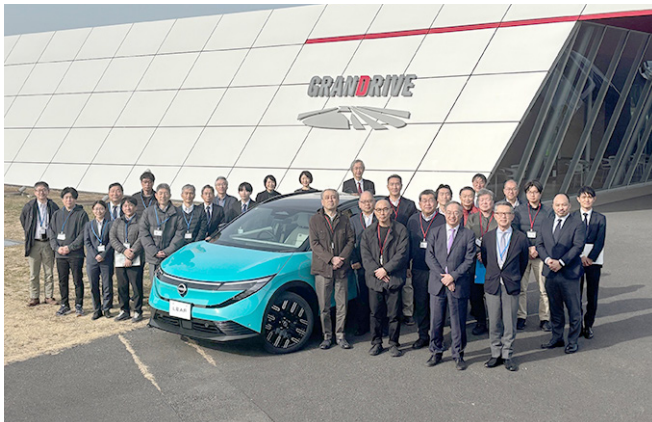
試乗の前に、イベントホールにて後藤取・渉外担当理事より歓迎のご挨拶をいただき、その後、グラ

ンドライブ前で新型リーフを囲んで参加者全員による記念撮影を行いました。続いて参加者は2グループに分かれ、荒れた路面や首都高速道路に見られる段差などを再現した区間に加え、高速走行が可能な直線区間を有する、1周約4キロメートルのテストコースにおいて、2グループが交互に試乗を体験しました。

参加者の皆さんは、新型リーフやGT-Rなど5車種すべてを試乗し、電動車による自動運転走行なども体験。電動走行ならではの走行感覚や、スポー

ツカーの爽快な走行性能などを体感しました。さらに、ゲストホール前では、自動駐車技術のデモンストレーションも見学しました。最後に、テストコースのバンクを活用した高速走行体験をGT-Rの同乗にて実施しました。

視察会終了後、多くの参加者から「非常に貴重な体験をさせていただきました」といった感謝の声が寄せられました。ご協力いただきました日産関係者の皆さまに、心より御礼申し上げます。



参加者全員で新型リーフを囲み記念撮影



試乗の前に日産担当者から
レクチャーを受ける参加者の皆さん



操縦安定性や走行性などを体験できるよう
タイプの異なる日産車が用意



広大な敷地面積（約45万㎡）につくられた
1周約4kmのテストコース



直線コースでは時速100kmのスピード走行も体験



バンクなど多様な道路環境も再現されたコースを走行

2 月

第114回全国自動車会議所専務理事会 愛媛県松山市で開催

税制改正の成果や新規会員の増加など、 今年度の取り組みを共有

日本自動車会議所は2月19日、20日の2日間、愛媛県松山市において「第114回全国自動車会議所専務理事会」を開催しました。全国の自動車会議所からは15会議所が現地参加、2会議所がリモート参加し、全国的な連携強化と情報共有を図りました。

会議冒頭では、日本自動車会議所の島崎豊専務理事より開会挨拶が行われ、開催事業所である愛媛県自動車会議所の松本真一専務理事より歓迎の挨拶が述べられました。続いて、日本自動車会議所の島山太作常務理事より2025年度の活動進捗が報告されました。

報告では、税制改正要望活動において、環境性能

割の恒久廃止（2026年度～）が実現したこと、また長年の課題であった自賠責保険積立金（一般会計貸付金）5,741億円の全額一括返済が決定したことが大きな成果として紹介されました。加えて、日米自動車文化交流イベント（NASCARデモラン）の開催、モータースポーツ委員会の活動開始、交通安全アクションを始めとしたイベントの定例開催など、各分野の活動内容について共有されました。

さらに、2025年度はモータースポーツ関連や部品メーカーを中心に26団体・企業が会議所に新規入会し、会員数が162から188へと増加するなど、会員ネットワーク強化の進展も説明されました。情



報共有セッションでは、静岡県および愛知県の自動車会議所より地域課題や新たな取り組みが紹介され、参加者間で活発な議論が交わされました。

翌20日は松山市内を視察し、今回の全日程を終了しました。

なお、次回の全国自動車会議所専務理事会は、2026年度秋に北陸近畿ブロックでの開催が予定されています。

第9回運営審議委員会開催 理事会への上程議案を審議

日本自動車会議所

日本自動車会議所は3月10日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で、第9回運営審議委員会（委員長＝松永明・日本自動車工業会副会長）を開催＝写真＝し、3月16日に開催する第223回理事会の上程議案について審議しました。

委員会では、島崎豊専務理事の挨拶のあと、松永委員長の議事進行の下、畠山太作常務理事が2026年度事業計画案および同予算案の2議案について説明しました。審議を経て、議案は承認され、委員会は閉会となりました。



松永明委員長



第2回経済・産業委員会開催

経産省自動車課の伊藤課長が講演

テーマは「自動車産業を取り巻く動向等について」

日本自動車会議所は3月12日、東京・港区の日本自動車会館において、2025年度第2回経済・産業委員会（委員長＝小糸正樹・日本自動車販売協会連合会副会長・専務理事）を開催し、委員および企業会員36名が出席しました。



伊藤政道自動車課長

藤政道課長が講師として講演し、国際情勢や自動車産業を取り巻く最新動向について講演しました。地政学リスクやエネルギー供給の不安定化を背景に、政府としてサプライチェーンの維持・強化を重視している点が説明されました。

世界の自動車市場動向では、中国・北米・欧州・日本を比較し、EV普及状況や各国政策の違いについて解説が行われました。さらに、EV充電インフラ整備支援や自動運転技術の進展、自動車関連税制



改正の動向についても説明がありました。

講演後の質疑応答では、持続可能燃料や補助金政策などについて活発な意見交換が行われ、委員会は終了しました。

2025 年度全国自動車会議所永年勤続者表彰式

受彰者の取り組みや貢献に感謝

全国6会議所から受彰者9名が出席



記念撮影をする受彰者（前列）の皆さん

日本自動車会議所は3月13日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で、「2025年度全国自動車会議所永年勤続者表彰式」を行いました。同表彰式は、全国の自動車会議所に勤務する職員のうち、推薦のあった永年勤続者（概ね勤続20年以上）を対象にしており、今回は全国6会議所から10名が表彰されました。表彰式には受彰者9名が出席し、当会議所の島崎専務理事から表彰状を受け取りました。

表彰式で挨拶に立った島崎専務理事は、「全国の

各会議所は、地域の自動車業界の取りまとめ役として、日々、地道な活動を続けられています。長く業務に携わってこられた皆さまは、『登録・検査』に関する業務をはじめ、『交通安全』や『環境への取り組み』、時には知事をはじめ自治体への要望活動などを通じて、自動車業界発展の礎として多大なる貢献も果たしてこられました。これまでの長年にわたるご尽力に、改めて心より感謝申し上げます」と受彰者へ感謝の気持ちを伝えました

また、当会議所では、自動車業界で働く550万の



島崎専務理事（左）から受彰者一人ひとりに表彰状が授与



受彰者を前に挨拶をする島崎専務理事

人々と自動車ユーザーによるさまざまな貢献を表彰する「クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞」（CSP大賞）を2021年に創設しましたが、島崎専務理事は「皆さまは、まさにCSP大賞創設の原点にいらっしゃる方々です」とも述べ、受彰者の皆さんの地道な活動などを高く評価しました。

続いて、島崎専務理事から受彰者の皆さんに表彰状と記念品が贈呈され、受彰者を代表し、愛知県自動車会議所の野村宗平さんが謝辞を述べました。希望ナンバー制度が始まった翌年に入所した野村さん

は、「それまでの手作業による事務から業務の電算化へと舵が切られた転換期で、分厚いマニュアルを手に、慣れないシステム操作を一生懸命に覚えようとしたことが思い出されます」と振り返り、「このような栄えある賞をいただけるのは、関係団体の皆さまや諸先輩方の温かく、時には厳しいご指導と、良き仲間、何より家族の励ましがあったからこそです」と関係者へ感謝の気持ちも伝えました。

受彰者を代表し謝辞を述べる愛知県自動車会議所の野村宗平さん(右)



最後に、受彰者はじめ各会議所関係者も交えて記念撮影を行い、表彰式は終了しました。この後、東京・港区海岸の日の出ふ頭に移動し、クルーズ船「シンフォニー」で東京湾をクルーズしながら懇親会を開催し、和やかな懇親の輪が広がりました。

◇2025年度の受彰者は次の通り。順不同。

- ・小野 淳子さん（宮城県自動車会議所）
- ・山田 宜弘さん（神奈川県自動車会議所）



クルーズ船「シンフォニー」の前で記念撮影

- ・出羽 淳一さん（神奈川県自動車会議所）
- ・島村 大さん（神奈川県自動車会議所）
- ・風間 さおりさん（静岡県自動車会議所）
- ・山田 千里さん（愛知県自動車会議所）
- ・野村 宗平さん（愛知県自動車会議所）
- ・平出 恵美さん（愛知県自動車会議所）
- ・三屋 絢子さん（福井県自動車会議所）
- ・東 江美さん（大分県自動車会議所）



東京湾をクルーズしながら和やかな懇親パーティ

「JAF モータースポーツジャパン」に出展

モータースポーツを盛り上げる活動を展開

日本自動車会議所

日本自動車会議所は3月20日、21日の両日、神奈川県横浜市の山下ふ頭で開催された「JAFモータースポーツジャパン 2026 in 横浜」にブースを出展し、当会議所を紹介するビデオ放映や、モータースポーツに関するアンケートなど行いました=写真=。また、富士スピードウェイなどを紹介するチラシも配布するなど、モータースポーツを盛り上げる活動を

展開しました。

モータースポーツジャパンは、「親子でモータースポーツを『見て・聞いて・触って・体験する』」ことをコンセプトに、当会議所の会員でもある日本自動車連盟（JAF）が主催するイベント。レースやラリー車両などのデモンストレーション走行や同乗体験のほか、「はたらくるま」など多種多様な



クルマも展示され、JAFによると、2日間で約5万3,000人もの来場者で賑わい大盛況のうちに幕を閉じたとのこと。

第3回モータースポーツ委員会

モビリティリゾートもてぎで開催

モータースポーツカレンダー調整など幅広く意見交換

日本自動車会議所は3月21日、栃木県茂木町・モビリティリゾートもてぎにおいて、2025年度第3回モータースポーツ委員会（委員長＝加地雅哉・TGRグローバルモータースポーツディレクター）を開催＝写真＝しました。本委員会では、2026年度のモータースポーツカレンダー調整をはじめ、業界全体の魅力向上、ファン拡大、人材確保、ならびに通信・DX推進について幅広く意見交換を行いました。

2026年度のモータースポーツカレンダーについては、シーズン全体の競技環境や安全性、持続可能性の向上を意識し、8月に一定期間の休止を設ける案を軸に検討を進めています。国内外のモータースポーツイベントとの調和や、サーキット運営への配慮を含め、関係者間で丁寧な調整を重ねながら、より良い開催形態の実現を目指します。

また、モータースポーツ業界の魅力向上に向け、ファン層の拡大や新たなスポンサー獲得の重要性が共有されました。特に、若年層や女性を含む新たなファンへのアプローチ、デジタルを活用した情報発信、観戦体験価値の向上などについて、他スポーツの先進事例も参考にしながら議論を深めました。今後は、関係団体が連携し、長期的視点での取り組みを進めていく方針です。



人材面では、競技運営を支えるオフィシャルの確保が重要な課題として共有されました。若年層を中心とした人材の参画促進に向け、認知度向上や体験機会の創出、働きやすい環境づくりを進めるとともに、業界全体での連携を強化していきます。

さらに、通信環境の改善やAI技術の活用、データ利活用を含むDXの推進についても報告が行われ

ました。競技運営の効率化や安全性向上、ファン体験の充実につなげる取り組みとして、段階的に検討・実装を進めていくことを確認しました。

今後も本委員会では、モータースポーツ業界の持続的な発展を目指し、関係者と連携しながら具体的な施策の検討と実行を進めていきます。

「自動運転技術の現状と社会実装」

東京工科大学教授・未来モビリティ研究センター長 須田義大氏が講演

第313回会員研修会開催

日本自動車会議所は3月27日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で第313回会員研修会を開催し、会員など約50名が出席しました。今回は「自動運転技術の現状と社会実装」をテーマに、東京工科大学教授で未来モビリティ研究センター長の須田義大氏を講師にお迎えし、ご講演をいただきました。講演では、自動運転技術の基本的な整理から最新の実証事例、さらには地域社会への実装に向けた課題まで、幅広い観点から解説が行われました。

冒頭、須田氏は自動運転の定義と技術レベルについて説明し、2015年に国際的な基準として整理されたレベル0からレベル4までの考え方や、それぞれの技術的・制度的特徴について紹介しました。現在はレベル2～3の技術が実用段階にある一方、運転手を前提としないレベル4の自動運転サービスの社会実装が大きな転換点になると指摘しました。

続いて、国内外の具体的な取り組み事例として、千葉県柏市における特定自動運行制度を活用したレベル4実証実験や、八王子市で進められている大学スクールバスの自動運転プロジェクトが紹介されました。特にスクールバスの事例では、地域の移動課題解決や公共交通の持続可能性確保といった観点から、自動運転技術の有効性が示されました。

また、中国におけるエンドツーエンド型自動運転

技術や、低コストでの車両開発動向についても言及があり、ソフトウェア主導の開発体制やインフラ協調型技術の進捗が、日本の自動運転戦略にも大きな影響を与える可能性がある」と述べました。

さらに、今後の展望として、車両単体の技術高度化に加え、インフラ協調(通信型)自動運転や、鉄道・バスなどを含めた複数交通手段を統合するMaaS(モビリティ・アズ・ア・サービス)の重要性が強調されました。

自動運転の本格普及には、地方自治体、交通事業者、メーカー、ディーラーなど多様な主体によるエ



須田 義大氏



コシステム構築と、データ連携・ビジネスモデルの確立が不可欠であるとまとめました。

講演後の質疑応答では、地域における受容性の高め方や制度面の課題、中国技術との向き合い方などについて活発な意見交換が行われ、参加者の関心の高さがうかがえました。

自動運転技術は単なる先端技術ではなく、地域社会の交通課題解決に直結する重要なテーマであり、今後も官民連携による継続的な取り組みが求められます。

第2回道路・交通委員会開催

警察庁交通企画課の緒方課長補佐が安全対策などの最新動向を講演

JAFの酒井理事・経営企画部長が新基本理念などを説明

日本自動車会議所は3月30日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室において、2025年度第2回道路・交通委員会(委員長:重田雅史・

全日本トラック協会理事長)を開催しました。当日は、委員22名、企業会員10名が出席しました。委員会では、警察庁交通局交通企画課の緒方友幸課長

補佐が、警察庁による交通事故・交通安全対策の最新動向について講演しました。また、日本自動車連盟（JAF）の酒井明夫理事・経営企画部長が、JAFによる新基本理念と活動内容について説明しました。両講演後には、それぞれ質疑応答が行われました。講演要旨は以下のとおりです。

【講演要旨】

■交通事故・交通安全対策の最新動向

講師：警察庁交通局交通企画課

緒方友幸課長補佐

交通事故による死者数は2,547人と過去最少となりましたが、依然として1日あたり7～8人が亡くなっており、死者の半数以上を高齢者が占めているほか、重傷者数は増加傾向にあると分析しています。

○危険行為と高齢運転者対策

“ながらスマホ”による死亡・重傷事故は増加しており、致死率は通常の約3.4倍に上がっています。飲酒運転についても事故件数は下げ止まり状態にあり、致死率は7倍を超える高水準となっていることから、警察庁では取り締まりと広報啓発を強化しています。また、75歳以上の高齢運転者による事故は操作不適やブレーキとアクセルの踏み間違いが主な原因であり、身体能力や判断力の低下への対応が課題です。

○自転車・特定小型への新制度と課題

2026年4月から自転車の青切符制度が導入され、16歳以上を対象に“ながらスマホ”や信号無視など



緒方課長補佐



の違反に反則金が科されます。あわせて、歩道や車道の通行ルール、車両との間隔確保義務などの新たなルールについても示されました。また、電動キックボードなどの特定小型原動機付自転車は大都市部で事故が多く、飲酒運転や深夜帯の事故が目立つことから、対策の強化が進められています。

■JAFによる新基本理念と活動紹介

講師：JAF 酒井明夫理事・経営企画部長

JAFは、職員へのアンケートやワークショップなど、ボトムアップによる取り組みを経て、「安心安全、そして移動価値」を新たな基本理念として策定し、組織風土の改革を進めています。

会員サービスについては、会員数が約2,071万人、継続率が93%と高水準を維持しています。交通安全分野では、講習



酒井理事

会やeラーニングの実施に加え、子ども向けの安全免許証やシートベルト体験など、幅広い世代を対象とした啓発活動を展開しています。

ロードサービスでは、年間およそ230万件を提供しており、バッテリー上がりやタイヤトラブルへの対応が中心となっています。また、自然災害時には警察などと連携し、緊急車両の通行確保といった支援活動も行っています。

モータースポーツ分野では、FIA（国際自動車連盟）との連携による競技ルールの策定や安全確保に加え、ジムカーナやオートテストの普及、eモータースポーツの推進などを通じて、若年層に自動車の魅力を伝える取り組みを進めています。

さらに、外国免許の翻訳発行や在留外国人向けの交通ルール啓発といった国際的な対応では、SNSや多言語対応の課題を認識しながら、今後も効果的な啓発方法を模索していく考えです。

「交通安全 アクション2026」

38の団体・企業などが参画し、4月4日、5日に開催

2日間で4,000人が来場

日本自動車会議所は4月4日、5日の両日、東京・新宿区の「新宿駅西口広場イベントコーナー」で、交通安全の大切さやルールを楽しく学べる体験型交通安全啓発イベント「交通安全 アクション2026」（以下、「アクション2026」）を開催しました。2日間で約4,000人が来場し、趣向を凝らしたステージアトラクションやブースプログラムなどを体験しました。

初日4日のオープニングセレモニーで挨拶に立った当会議所の島崎豊専務理事は、「昨年2,500人を超える方が交通事故でお亡くなりになられています。ご高齢の方や、幼児・児童という小さいお子さんが事故に巻き込まれることが多いのですが、最近では自転車に絡む事故も増えています。自転車の体験コーナーをはじめ、いろいろと用意していますので、交通安全に思いを馳せていただければと思います」と述べました。

続いて新宿警察署の福田佳生交通課長が挨拶し、「明後日6日からは、春の全国交通安全運動が始まります。今年4月から自転車の青切符の適用制度も始まりました。本日は是非、各ブースを体験いただき、交通安全、交通ルールに対する意識を高めていただければと思います」と述べて、イベントがスタ



ピーポくんファミリーも参加したオープニングセレモニー

ートしました。

「アクション2026」は警視庁新宿警察署との共催で、内閣府、国土交通省、警察庁、東京都、警視庁交通部が後援し、当会議所の会員団体をはじめ、開催趣旨に賛同する38の団体・企業などが参画して開催されました。「高齢者・幼児/児童を重点対象とした各種アトラクションの体験を通じて交通社会のルールや安全行動の大切さを啓発する」をテーマに、これらを楽しく学べる12の体験型ブースプログラム

を用意。交通安全グッズなどがプレゼントされるスタンプラリーも実施し、小さな子どもから高齢者まで多くの来場者で賑わいました。ステージプログラムでは、警視庁音楽隊ミニコンサートや、警視庁マスコットキャラクターのピーポくんファミリーも出演した交通安全教室・撮影会などにたくさんの家族連れが参加しました。

日本自動車会議所は、今後もこのようなイベントの開催を通じて、交通安全に寄与してまいります。

日本自動車会議所会員 (2026年4月1日現在) = 団体会員 92、順不同 =

一般社団法人 日本自動車工業会
 一般社団法人 日本自動車部品工業会
 一般社団法人 日本自動車車体工業会
 一般社団法人 日本自動車タイヤ協会
 一般社団法人 日本自動車販売協会連合会
 いすゞ自動車販売店協会
 トヨタ自動車販売店協会
 日産自動車販売協会
 U D トラック販売協会
 日野自動車販売店協会
 三菱自動車販売協会
 三菱ふそう自動車販売協会
 全国スバル自動車販売協会
 ダイハツ自動車販売協会
 全国マツダ販売店協会
 スズキ自動車販売店協会
 ホンダ自動車販売店協会
 一般社団法人 全国軽自動車協会連合会
 日本自動車輸入組合
 一般社団法人 日本中古自動車販売協会連合会
 一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会
 一般社団法人 日本自動車機械工具協会
 公益社団法人 全日本トラック協会

公益社団法人 全国通運連盟
 公益社団法人 日本バス協会
 一般社団法人 全国ハイヤー・タクシー連合会
 一般社団法人 全国自家用自動車協会
 一般社団法人 日本損害保険協会
 石油連盟
 一般社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会
 一般社団法人 全国自動車標板協議会
 一般財団法人 自動車検査登録情報協会
 一般社団法人 全国レンタカー協会
 一般社団法人 日本自動車リース協会連合会
 一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会
 一般社団法人 自動車公正取引協議会
 全国自動車検査登録印紙売捌人協議会
 一般財団法人 関東陸運振興センター
 一般社団法人 東京都トラック協会
 一般社団法人 神奈川県トラック協会
 一般社団法人 日本道路建設業協会
 一般社団法人 日本ゴム工業会
 一般社団法人 日本塗料工業会
 一般社団法人 板硝子協会
 日本自動車車体整備協同組合連合会
 一般社団法人 日本交通科学学会
 一般社団法人 日本陸送協会

一般社団法人 日本二輪車普及安全協会
 一般財団法人 日本自動車研究所
 一般社団法人 日本自動車機械器具工業会
 特定非営利活動法人 ITS Japan
 公益社団法人 自動車技術会
 公益財団法人 自動車リサイクル促進センター
 一般社団法人 日本ガス協会
 一般社団法人 日本自動車運行管理協会
 一般社団法人 日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会
 一般社団法人 自動車再資源化協力機構
 一般社団法人 自動車用品小売業協会
 一般社団法人 日本オートオークション協議会
 日本中古車輸出業協同組合
 全国オートバイ協同組合連合会
 一般社団法人 日中投資促進機構
 一般財団法人 日本自動車査定協会
 一般財団法人 全日本交通安全協会
 公益財団法人 日本自動車教育振興財団
 全日本自動車部品卸商協同組合
 一般社団法人 日本自動車購入協会
 一般社団法人 日本自動車連盟
 一般社団法人 スーパー耐久未来機構
 一般社団法人 日本自動車車体補修協会
 特定非営利法人 日本自動車レース工業会

一般社団法人 青森県自動車団体連合会
 一般社団法人 岩手県自動車会議所
 一般社団法人 宮城県自動車会議所
 一般財団法人 秋田県全自動車協会
 山形県自動車団体連合会
 一般財団法人 福島県自動車会議所
 東京都自動車会議所
 一般社団法人 神奈川県自動車会議所
 一般社団法人 静岡県自動車会議所
 一般社団法人 愛知県自動車会議所
 一般社団法人 岐阜県自動車会議所
 一般社団法人 三重県自動車会議所
 一般社団法人 富山県自動車会議所
 一般社団法人 石川県自動車会議所
 一般社団法人 福井県自動車会議所
 一般社団法人 大阪自動車会議所
 一般社団法人 徳島県自動車会議所
 一般社団法人 香川県自動車会議所
 愛媛県自動車会議所
 高知県自動車会議所
 一般財団法人 大分県自動車会議所
 (ほかに企業会員 95、推薦会員 1)

[企業会員の一覧はこちら](#)

自動車会議所ニュース

2026

春

No.966

発行所



一般社団法人 日本自動車会議所
 Automobile Business & Culture Association of Japan

発行人 島崎 豊 編集人 田村里志

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30
 日本自動車会館15階

電話 03 (3578) 3880

FAX 03 (3578) 3883

URL <https://www.aba-j.or.jp>